





飛行機で国内を移動するたびに感じるのは、着陸態勢に入った機の窓から見えるゴルフ場の多さである。その経営が行き詰まりつつあるといふが、狭い国土にこれほどのものができてしまったのだから、さうかもしれないと素人ながらも考へる。片田舎に住む私の家から半径十数キロの範囲に五カ所もあるのだから驚くべきだが、猫も杓子もゴルフにかけた時代の風潮を見越してきた自分に責任の一端を感じるのは、神職だからである。賤しい自暴自棄に對して、ゴルフをしないから加担者ではないやうに感じて来た自分を責める思ひが、このころややく湧いてきた。自然に対する畏敬の念や自然と共に生きる心を説くのは、われわれのつとめではなかったのか、悔やまれるのではない。もっとも、バブル経済が崩れるまでの全国的なゴルフ場造成の勢ひを止めるほどの力はなかったし、環境破壊を叫ぶ人たちに同調すればよいといふほど単純なものでなかったが、神道の立場から一言あつて然るべきではなかったかと、

思はれてならない。  
一連の、いはゆる政教分離問題に関する裁判についても、正直なところ、斯界にどれほどの関心と発言があったのかを考へてみると、自分を含めて反省しなければならぬ点が多い。火をつつけられてから、慌てて水を汲みに行くやうな対応をくり返すばかりで、今回の愛媛玉串訴訟の最高裁判決

### 神職として語るべきこと

まいか。そして、これほどまでに症状の悪化した日本の体質を改善するために、事象への対応だけでなく、もつと根本的なところで、時間のかかることを承知しながら、取り組まなければならない斯界の姿勢が問はれてくるといふこともあらう。  
靖國神社と護國神社にかはる問題で、神職の考へを訊かれるのは当然のことである。経緯の説明だけでなく、それが日本の国

時折、私などにも「社頭講壇集」の発刊を勧める同輩がある。手近にそんなものが欲しいといふ氣持は、わからぬでもないが、自ら資料を求め、考へ悩んで、自分のことは語らぬことには人を感動させたり納得させたりすることはできない。何事によらず常に関心を持つこと、自分の氣持や考へを率直に語りかけてみる。しかも、それが日常のなならないかぎり、訓練されることはいま、

あちこちの集落で話してゐるうちに、共鳴や共感がある。話す意欲が湧いてきて、いつの間にか話さずにはあらぬくなる。場を踏むことが肝要で、手ほどきを受けたおぼえは私にもない。実践してみせるだけの地方では「自講」と呼んでゐる。

新彊ウイグル自治区博物館の中、他の物に混って「ボツン」と淋しそうにしているワイングラスが一個あつた。なんと驚くべき、ササン朝ベルシヤ製のカットグラスの完形品であつた。ガラスの表面は凸形をしていて「浮出し彫形切子装飾」に、高い脚台が付いた、淡い緑色をした将しくワイングラスである。高さ20cm、口径20cmの碗は、新彊ウイグル州庫車(クチュ)地方の畑で農作業中に表面採集したという。  
丁度沖ノ島祭祀に奉獻されている瑞璃碗に脚台を取り付けて、色といふ形といふまったく同一物である。沖ノ島のカットグラスと同一模様の物は、一、イラン・ギラン高原の古墳出土のバルテノンササン朝のカットグラス。  
一、今回先日に見た寧夏回族自治区固原県李賢墓出土の「瑞璃碗」(新彊ウイグル州の巴楚脱庫孜薩來依遺跡からもササン朝系のカットグラス片が出土しているといふ)。日本では各々様式が異なるが、五・六世紀代に比定されるカットグラスは、  
○京都・上賀茂神社出土「二重彫形碗」  
○大阪・伝天徳天皇陵出土「凹形彫文碗」  
○奈良・正倉院蔵「凹形彫文碗」

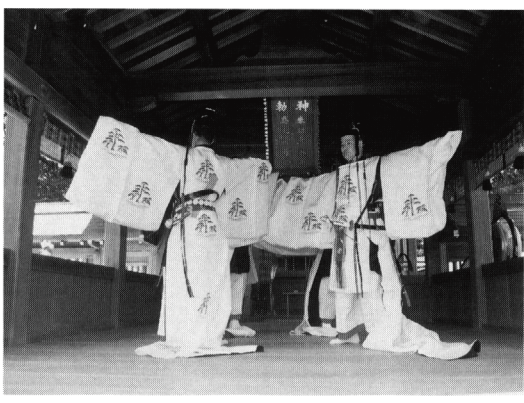
### 一話 (60) 中国調査紀行 (23) 樂 忞 子

等である。形が異なる容器は、  
○大阪・伝天徳天皇陵出土「皿・壺」  
○奈良・新沢千塚二二六号墳出土「皿・小壺」もある。ガラス類は非常に少なく当時としては超貴重品である。  
ガラスは古代オリエント文明のメソポタミアが源とされ(B.C.3000年)、次いでシリアの地方で「吹きガラス」技法が開発されたという。これを編み出したのがガラス工芸の一大革命であつた。  
ベルシヤからやって来た「ササン・ガラス」、即ち瑞璃碗は、  
○浮出し彫形切子装飾碗  
○二重彫形切子装飾碗  
○凹形凹形切子装飾碗  
○凹形凹形切子装飾碗  
○突起装飾碗  
等に分類することが出来る。朝鮮半島では新羅の都慶州の古墳から、皇南大塚壺墳出土の「把手付長頸壺(水差)」を代表として二十点程のベルシヤのガラス容器が出土している。  
六・七世紀の沖ノ島祭祀は新羅との交渉期として金指輪を始めとして金銅製馬具類等新羅製を多く供へ安全を祈つてゐる。  
この頃の中国東北部の古墳の出土品と、同一型体の容器品、鍍金製がガラスと金器と一緒に、朝鮮半島新羅の古墳にも出土していると言われている。同時にまた今は北朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)であるが、高句麗の古墳にも副葬されていると思ふ。

### 宗像大社中津宮御本殿 竣功奉祝祭齋行

去る平成九年四月十一日午前十一時より、宗像大社 百余名が参列の中盛装中に中津宮御本殿竣功奉祝祭齋行、

村内外の氏子崇敬者二百余名が参列の中盛装中に中津宮御本殿竣功奉祝祭齋行、



中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を

中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を

中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を



中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を



中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を



中津宮本殿 福岡県指定文化財は、昭和二十八年の御屋根葺員降四十数奈年の風雨と鳥害の爲根の傷みが酷く、平成七年より二ヶ年間に渡り福岡県の補助を受け本殿の解体修復工事を決定した。  
工事は福岡県教育庁文化課の指導の下、施工監督を文化財建造物保存修築協会に、施工は本事を弘江組、屋根事を尾島上務店に委託した。  
平成七年工事(先立ち)、中津宮は沖、中面宮奉賛会が中心となり解体修復工事を開催奉賛金目標額、奉賛の方法等概要を決定する。十月十二日、中津宮本殿解体修復工事奉賛説明会を







宗像大社歌会  
俳句作品集 四〇九

福岡 森 清  
酒酌みて花びら浮かす花見  
かな

福岡 二宮 末子  
釣糸の柳にらみ子等あわ  
て

日ノ里 花田いつ枝  
船ひし老舗まだあり宮の  
春

自由ヶ丘 細川 絹子  
土つけし竹の子持ちて友の  
来る

若松 高橋 忠實  
晩春の若葉がくれたおそ核  
朝霧につつまれ植えし素翁  
は生つく

福岡中央 山下しづえ  
朝霧につつまれ植えし素翁  
は生つく

藤沢 井上 玄洋  
サーファーのただ浮すばかり  
春の海

東郷 吉武 湧泉  
春愁や時代の流れに坑山消  
ゆる

東郷 中野 きみ  
春愁や糸の通らぬ針仕事

東郷 吉田 鈴子  
雛の絵をかけて八十のお白  
酒

東郷 吉田 杏子  
石佛もしは眼をぬめも彌生  
月

東郷 三浦美千代  
風光るベットのインコ背を  
丸め

東郷 有吉重紀子  
遍路宿川の音して芹の飯  
暎

東郷 田中 雨葉  
東郷 道玄伝む連聲音  
東郷 木原 厚子  
案ずるに案しられを機嫌々

(続)



116

いししいただし

帰りは釜山港を十二時十五分出航。船首につかつて左側の窓際であった。酒類は口にせず、ただ三時間

チロル類が漂流していたが、あれだけの活気ある港であるが、思ったほど海は汚れていなかった。出発して二〇分ほどすると、プラスチック製の丸浮子が数個と、その周囲に海藻や流木が一緒に漂着中を見た。

一時三〇分ごろ、前方に航行するタンカーや貿易船が多く目につく。漁船も見え、オオミズナギドリらしい海鳥が飛び、海がにぎやかなにぎやかな。左手前方に鳥影がぼくと見え、沖ノ鳥らしい。鳥を裏側から見るとはじめてである。何か形容しがたない不思議な感動を覚えた。そこに胸がどきどきする。沖ノ鳥はやはり間違いない。沖の鎮まちはまた島である。船内アナウンスで「ただ

上から見たココヤシの笛

いま本船の左手に見えている島が沖ノ鳥で」と島の説明がはじまる。第一次から三次にわたる調査が行われ、十万余の調査が発掘され、それが国宝や重文に指定され、豪華な遺物から島が「海の手宮院」と呼ばれていることなどであった。乗客はのびのびと楽しんで見ている。天候はよかつたが、薄くモヤが島を包み、船からもかなり離れていたためか、残念ながらカメラには写っていない。沖ノ鳥が見える時には、不思議なことに風が出て、白波がたついている。沖ノ鳥が見えなくなると、風はなごうなごうと吹いていた。大島らしい鳥影が見え、実に平坦な相島も視野に入ると、船と漁船が多くなってきた。

宗像むかしばなし

玄海の一ツ火(附)

現代の宗像海辺は、自然美に恵まれた風光明媚な玄海国立公園の一環として、レジャーを楽しむ来遊者も少なくない。中でも津屋崎沿岸は、白砂青松奇岩連壁の眺望が人々の歩を誘う。その昔、山田の地蔵や安倍重任にまつわる悲劇が残されたが、しごくの浜に身を投じたお露の冥福も同様知る人は少ない。打ちよせる白波の音は話らない。風にゆらゆらと若い女性の傷跡をささぐり、はくはくしない。

今故郷となった元福岡市長の河内卯兵衛氏は、昭和十四年頃、藩政時代における海外雄飛の留聲として、伊藤小左衛門一家連類の悲惨事に就いて口述しているが、それが、後日博多の有志によって小冊子にされたことがある。博多人でもあり小左衛門研究の第一人者たる氏の語録が、郷土の生んだ海外雄飛の非凡なる人として表面には出さず、五才の三男小四郎と三才の万之助の名を混合して

萬四郎神社は、戦災のため焼亡したが、昭和二十一年和約十四年間に地元有志の協力で、社殿再建が行われて氏の研究も印刷頒布されたのである。萬四郎神社は、寛文七年小左衛門一家が別荘した後、臺商の遺業を継ぎ、祭られたため、ひそかに祭られた。然し、地民は重田豊徳とす、小左衛門一族を祭るとする神社として表面には出さず、五才の三男小四郎と三才の万之助の名を混合して

萬四郎神社と名づけ、博多繁昌、子息無災の祭をつづけて今日に至っている。地元民は今も盛んに祭礼を行うが、その悲惨事神社創建の発端となっていることは語らない。亡霊を慰めてその禍を避けるため祭られた神社も少なくなく、その著しい例は、菅原道真公不遇の生涯を終わらせた、京洛に疫病が流行した、御所の殿舎に落雷したり、異変を怖れて、怨霊を祟として伊藤一家滅亡は触れていない。然し、博多人の間に伝えられてきた口碑と若干の記録とは、多少の差はあっても大体一致、今の万四郎神社の境域は伊藤家宅地の近傍で、或は事件時時点でその屋敷内であったとも云われている。

この頃になる 唐使船の航海安全を主体に折つた国家祭祀の場であり、またその終焉の地でもある。この頃になる 唐使船の航海安全を主体に折つた国家祭祀の場であり、またその終焉の地でもある。この頃になる 唐使船の航海安全を主体に折つた国家祭祀の場であり、またその終焉の地でもある。

萬四郎神社と名づけ、博多繁昌、子息無災の祭をつづけて今日に至っている。地元民は今も盛んに祭礼を行うが、その悲惨事神社創建の発端となっていることは語らない。亡霊を慰めてその禍を避けるため祭られた神社も少なくなく、その著しい例は、菅原道真公不遇の生涯を終わらせた、京洛に疫病が流行した、御所の殿舎に落雷したり、異変を怖れて、怨霊を祟として伊藤一家滅亡は触れていない。然し、博多人の間に伝えられてきた口碑と若干の記録とは、多少の差はあっても大体一致、今の万四郎神社の境域は伊藤家宅地の近傍で、或は事件時時点でその屋敷内であったとも云われている。

萬四郎神社と名づけ、博多繁昌、子息無災の祭をつづけて今日に至っている。地元民は今も盛んに祭礼を行うが、その悲惨事神社創建の発端となっていることは語らない。亡霊を慰めてその禍を避けるため祭られた神社も少なくなく、その著しい例は、菅原道真公不遇の生涯を終わらせた、京洛に疫病が流行した、御所の殿舎に落雷したり、異変を怖れて、怨霊を祟として伊藤一家滅亡は触れていない。然し、博多人の間に伝えられてきた口碑と若干の記録とは、多少の差はあっても大体一致、今の万四郎神社の境域は伊藤家宅地の近傍で、或は事件時時点でその屋敷内であったとも云われている。

萬四郎神社と名づけ、博多繁昌、子息無災の祭をつづけて今日に至っている。地元民は今も盛んに祭礼を行うが、その悲惨事神社創建の発端となっていることは語らない。亡霊を慰めてその禍を避けるため祭られた神社も少なくなく、その著しい例は、菅原道真公不遇の生涯を終わらせた、京洛に疫病が流行した、御所の殿舎に落雷したり、異変を怖れて、怨霊を祟として伊藤一家滅亡は触れていない。然し、博多人の間に伝えられてきた口碑と若干の記録とは、多少の差はあっても大体一致、今の万四郎神社の境域は伊藤家宅地の近傍で、或は事件時時点でその屋敷内であったとも云われている。

萬四郎神社と名づけ、博多繁昌、子息無災の祭をつづけて今日に至っている。地元民は今も盛んに祭礼を行うが、その悲惨事神社創建の発端となっていることは語らない。亡霊を慰めてその禍を避けるため祭られた神社も少なくなく、その著しい例は、菅原道真公不遇の生涯を終わらせた、京洛に疫病が流行した、御所の殿舎に落雷したり、異変を怖れて、怨霊を祟として伊藤一家滅亡は触れていない。然し、博多人の間に伝えられてきた口碑と若干の記録とは、多少の差はあっても大体一致、今の万四郎神社の境域は伊藤家宅地の近傍で、或は事件時時点でその屋敷内であったとも云われている。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。

三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。三月中旬に新聞発表された。



(61)

霧天祭祀に供えられた品々 一号祭祀の時代は、祭りの場が巨岩から離れて露天の移行していくが、露天的祭祀は連綿とつづき執り行なわれていく。丁度七世紀後半から十世紀初頭にかけてである。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年

の場も、自然の場から社殿へと移ってきた。日本書紀天武の條、天武十年(六八二)には「畿内および諸國に詔して、天社、地社、神宮を修理せしむ」とある。この前後の年頃に日本各地で社殿の造営、修復が一斉に行われていたことである。宗像の地でも、宝龜七年